

平成 20 年 11 月 25 日

## 中期目標検討委員会での検討の考え方

委員 西岡秀三

### 1. 姿勢

- (1) これまで日本政府が出してきた世界・日本の削減目標におおむね沿った検討が妥当。ややきびしめの削減も覚悟。
- (2) 低炭素社会への移行は必至であることを腹に据え、日本経済社会の新たな国づくりに向けた里程の検討という積極姿勢。他国との横並びの観点だけではなく主体的な魁・先取り・国際競争勝ち抜きの気持ち
- (3) 洞爺湖での global participation、先進国リードの合意を踏まえた国際秩序形成への積極努力と平行して、それを裏打ちするものとして日本が主体的にどれだけ削減し国際貢献できるかの見極め
- (4) 削減政策提示が主題：上記の目的に向けて、数値的裏づけのある政策を考える材料としてのモデル検討。科学的要請と削減可能推定量とのギャップをどう埋めてゆくかへの示唆が必須。数値はその過程から出る結果
- (5) 最終的な中期目標値決定は、国内での削減可能性範囲をしっかりと踏まえ、かつ交渉で決まる国際協力等の仕組みを考慮した総合判断

### 2. モデルによる検討

準備された検討項目はおおむね妥当であるが、特に以下の点に留意

- (1) 検討範囲：国内削減（真水）を中心に。国際協力メカニズム、吸収源は別途国際交渉で貢献
- (2) 政策のタイミング評価：早期加速あるいは先送りの国内（経済発展・エネ安全保障）・国際（途上国対応）効果判定、影響被害コストも考慮
- (3) 転換に必要な駆動力/摩擦(機会/コスト)を明示
- (4) 先進国間衡(公平)性：国際交渉における主張の基盤として
- (5) 不確実性への対処：気候変化状況・科学的予測の不確実性を踏まえた感度分析
- (6) 世界の研究結果との比較などで、広く立ち位置を確認